

増大号をお届け致します。今回のテーマは「日常診療に潜むリンパ腫・リンパ増殖性疾患」です。遭遇する頻度は低いかもしれませんが、診断に苦慮する際には鑑別が重要な疾患です。6つの総説を含めて読み応えのある特集となっておりますので、日常診療に是非お役立ていただければ幸いです。

前回の編集後記（2023年6月）で新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関して、「5月8日から、COVID-19は感染症の2類相当から5類に引き下げられました」と記載致しました。その後も、8～9月に感染者の数は増えていきましたが、10月以降はまた少し減ってきたようです。まさにウィズコロナ時代の到来と言えるかもしれません。私は10月初旬に7回目のCOVID-19ワクチンを接種致しました。また、インフルエンザが例年より早く流行しているようです。私は11月初旬にインフルエンザのワクチンを接種する予定です。最近では学会でも懇親会が開催されるケースが増えてきているようです。基本的な感染対策は続けながら、少しずつコロナ禍前の日常生活に戻りつつあるようです。

話は変わりますが、「アトピー性皮膚炎における生物学的製剤の使用ガイドンス」が日本皮膚科学会雑誌の2023年7月号に掲載されました。日本皮膚科学会アトピー性皮膚炎・蕁麻疹治療安全性検討委員会で作成しました。Interleukin(IL)-4やIL-13は2型の炎症反応に関与し、アトピー性皮膚炎の病態に重要な役割を果たしています。また、IL-31はアトピー性皮膚炎の瘙痒に関与することが知られています。アトピー性皮膚炎に対する生物学的製剤としては、2018年にIL-4受容体抗体であるデュピルマブが、2022年にIL-31受容体抗体であるネモリズマブとIL-13抗体であるトラロキヌマブがアトピー性皮膚炎もしくはそれに伴う瘙痒に保険適用されました。アトピー性皮膚炎に使用可能な生物学的製剤にはそれぞれ特徴があり、薬剤選択にあたって考慮すべき点としては、薬剤の効果、安全性、対象患者の年齢、用法・用量などがあげられます。本ガイドンスは、アトピー性皮膚炎の診療に精通した皮膚科専門医が、個々の患者に応じてそれらの複数の要因を勘案し、生物学的製剤を適正に使用することを目的として作成されました。ご参考にしていただければ幸いです。

（佐伯秀久）

— 顧 問 —

大原國章 大塚藤男

— 編集委員 —

土田哲也 五十嵐敦之 相馬良直 林 伸和 佐伯秀久

「皮膚科の臨床」第65巻 第12号 11月増大号

2023年11月1日発行（毎月1回1日発行）

定価 5,060 円（本体 4,600 円＋税 10%）

年間購読料金

定価 48,950 円（本体 44,500 円＋税 10%）

〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

TEL 03(3811) 7165〔編集室直通〕

TEL 03(3811) 7184〔営業部直通〕

FAX 03(3813) 0288

ホームページ www.kanehara-shuppan.co.jp

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 TEL 03(3637)0005

広告申込先 (株)文京メディカル TEL 03(3817)8036

- ・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・JCOPY＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。